

## 子どもの成長と発達に合わせた栄養教育の実施2

### －幼児の発話に着目して－

○小林 美佐子 國光 みどり 大瀬良 知子 (神戸女子大学附属高倉台幼稚園)

#### I. 目的

平成17年に「食育基本法」が制定され、平成20年に公示された「幼稚園教育要領」でも「食育」に関する内容が新たに記載されており、幼児期の食育が重要であることがわかる。本園では、昭和63年より給食室で完全給食を実施している。また、園庭で様々な食物の栽培を行い、収穫した野菜をその日の給食と一緒に食べることができている。さらに、クッキング保育を通じた異年齢交流も実施している。教諭と管理栄養士が連携し、子ども達が生きる基礎を培いながら、楽しく食べることができるようになることをめざして、「食育」を実施している。しかし、幼児達が毎日食べている給食時間の指導方法について考えられている研究は数多く見られない。そこでまず、給食時間の会話内容について調査を行い、保育者と幼児の間でどのような会話が成立しているのかを明らかにする。

本報では、昨年度の実践発表を踏まえ、本園で実施している子どもの成長と発達に合わせた栄養教育について、幼児の発話に着目して、実施内容の評価を行う。

#### II. 方法

##### 1. 調査対象と時期

神戸市立A幼稚園にて給食時の幼児と教師の発話に着目した。調査時期は、幼稚園2011年12月2回、2012年7月2回の合計4回である。

##### 2. 調査内容

予め食育や発話分析について学習した12名が筆記記録を行った。筆記記録をもとに執筆者らと12名でカテゴリの分析を行った。カテゴリの確認は、それぞれが独立でカテゴリの分析を行い、一致率を求めた。不一致であった発話に関しては、全員の協議によって一致した分類を行った。

##### 3. 発話内容のカテゴリ

発話内容は、今村(2008)を参考に、10のカテゴリに分類した。①摂食促し②マナー指導③栄養指導④価値づけ⑤片づけ促し⑥感謝の気持ち⑦一斉指導⑧日常会話⑨食に関する日常会話⑩その他

#### III. 結果

4回の調査の平均発話数を調べたところ、3歳では摂食促しが17.4%、4歳では栄養指導が24.8%、5歳では日常会話が21.8%で一番高かった。ある1回の3歳児クラスの発話数を調べたところ、平均では、一斉指導、食に関する指導が同数で多かった。クラス別に見ると、A・Bクラスでは一斉指導が多く、Cクラスでは栄養指導が多かった。

#### IV. 考察

給食の時間の会話内容から、基本的な生活習慣を身につけることや栄養指導の時間へと発展させることが可能であることが示唆された。イベント型の食育が主流になりつつあるが、給食の時間も有効に活用することが幼児期の食育の定着・充実に繋がると考えられる。年齢が同じでもクラスによって差がみられる部分もあったので、今後は、保育者の経験年数や給食に対する意識の違いにも着目していきたい。給食をどのように活用するかは、クラス担任である教師の意図が大きく影響しているだろう。給食を最大限に活用し、子どもたちの食に対する意識を高めるためには、栄養教育が必要であるが、今回のデータからはクラスによってばらつきがある事が明らかとなった。また、栄養指導といっても、3歳児クラスでは「食べ物クイズ」がほとんどであった。食への興味関心を高めるためには「食べ物クイズ」が有効であると考えられるが、発達段階に合わせた栄養指導とはどういうものかは明らかになっていない。今後も検討を重ね、発達段階に応じた給食時の指導を模索していきたい。調査の方法としては、記録する学生によっても記入量に差が見られたので、統一できる方法を検討すべきである。給食を活用しようという教師の意識を高めることが重要である。

#### VI. 参考文献

今村 光章:給食時における幼稚園教諭の発話分析－幼児期における「既存型」の食育の枠組みの解明を目指して－, 岐阜大学教育学部研究報告 10, 125-134, 2008.